

## 令和5年度第4回坂戸市健康なまちづくり審議会意見・質問に対する回答

### 1 審議事項

- (1) 第3次坂戸市健康なまちづくり計画（素案）に係る市民コメントの結果について
- (2) 第3次坂戸市健康なまちづくり計画（素案）に係る市議会議員からの質疑について（案）
- (3) 第3次坂戸市健康なまちづくり計画（最終案）について
- (4) 計画策定にかかる答申（案）について

### 2 意見質問に対する回答

項目	意見・質問	回答
資料1 P1, 3  P4	<p>No1の男性が、アンケート項目の見直しについて2つの意見を述べておられます。項目の精査は必要であると考えますが、アンケートは現状把握が目的ですので、対策がわかるような工夫は必要ないと考えます。アンケート調査票の目的（表書き）を追記すればよいかと考えます。</p> <p>No2の男性が、「坂戸らしさ」について言及しておられます。具体的な「坂戸らしさ」をこの方も述べておられません。「住み続けたいまち子育てしたいまち」が宣言ですが、そのほかにイメージできて、わかりやすい文言があれば理解が深まると考えます。「坂戸らしさ」とは何か市民コメントを募集しても良いかと思えます。私の認識不足で、すでに「坂戸らしさ」として採用されている文言があれば教えていただきたくお願いします。</p>	<p>アンケート調査の見直しにつきましては、ご意見として承り、中間評価の時期に検討いたします。</p> <p>「坂戸らしさ」とは何か、について現時点で明記されたものはございませんが、「坂戸らしさ」という文言で採用されているものについては、「第7次坂戸市総合計画」の「まちづくりの基本方向」において、「市民とともに発展を続け、すべての人が誇れる「坂戸らしさ」あふれるまちづくりを推進します。」と掲げています。</p>
資料2	<p>「坂戸市に住み続けたい市民」について、坂戸市総合計画にて調査したとの回答ですが、その結果を知りたく思えます。もし可能であれば、「再掲」という形で要点だけ入れることはできないでしょうか。</p>	<p>「坂戸市に住み続けたい市民」についてですが、「今後も坂戸市に住んでいたいと思えますか」という質問に対し、「ずっと住んでいたい」と回答したものが34.9%、「当分住んでいたい」と回答したものが31.7%と、回答者の6割以上の方が今後も坂戸市に住んでいたいと感じているという結果でした。</p> <p>この結果を含めました第7次総合計画策定や今後の市政運営の基礎資料を収集することを目的として令和元年に実施した坂戸市民意識調査報告書につきましては、市ホームページ <a href="https://www.city.sakado.lg.jp/uploaded/attachment/9291.pdf">https://www.city.sakado.lg.jp/uploaded/attachment/9291.pdf</a> に掲載しております。</p>

		こちらの結果を「再掲」という形で要点等を入れることにつきましては、本計画では現段階では難しいことから、現状のままとさせていただきます。
資料3 P20  P50、36	<p>第2次計画の評価(p.20)では、C評価が多くなっています。がん検診の受診の多くがC評価の理由の一つにはコロナ禍の影響が考えられるかと思えます。</p> <p>食生活については、知識があっても行動しない現状が見えます。「適切な食事量・葉酸を知っている」との設問はA評価になっています。その一方で、「健康づくり応援店を知っている」がC評価であるため、坂戸市の広報の効果なのか、一般的なメディアによる知識の浸透なのか不明です。坂戸市の広報の取組として、SNSなどの活用が一層重要な課題になると考えます。</p> <p>P50. 基本方針3 自分自身の身体をいたわるについて、の中に飲酒に関する指標が入っていません。P36の現状と課題では扱っています。このような点が、市民コメント(No1)と関連すると考えます。飲酒・たばこについては、課題の中で年代別の解析をしています。しかし、行政の取組の中には年代別に関する言及はありません。飲酒・タバコの利用が多い壮年期の男性を対象とする場合は、市民健康センターで取組をしても実施効果は少ないと考えます。また、喫煙については、「やめたい」と考えている対象者へのアプローチについての計画策定が必要かと考えます(p.51)。</p> <p>以上のことから、実行可能かつ効果が期待できる具体的な計画策定が、今後の課題であると考えます。</p> <p>アンケートの回収率をあげるために、委員会でも発言しましたが、SNSの導入、ポイントサービスなどを次回は採用すべきと考えます。特に20歳代の意見が26%では、正確な現状を反映しているとは考えられません。中間評価に向けた始動をご検討ください。</p> <p>街づくり計画は内容が精査されており、十分に理解できる内容でした。担当者の方々には大変な作業であったと思います。ありがとうございました。</p>	<p>がん検診の受診の多くがC評価の理由につきましては、ご指摘のとおり、コロナ禍での行動制限等の影響が大きな一つの要因であると認識しております。</p> <p>また、食生活については、アンケート調査結果より、若い世代が食に関する興味・関心が薄いことが伺えますことから、若い世代に向けSNSを活用するなど効果的な周知方法を検討してまいります。</p> <p>飲酒に関する指標の設定をすること、喫煙について「やめたい」と考えている対象者へのアプローチについての具体的な取組につきましては、今後の検討課題とさせていただきます。</p> <p>市民アンケート調査の実施方法につきましては、中間評価の際、SNSでの回答方法を導入することなど検討を進めてまいります。</p>
資料1 ～3併 せて	<p>資料1～3併せて</p> <p>市民コメントが、市民3名より14件寄せられたことは、非常に喜ばしいこととあります。市民によるパブリックコメントは、市民自らが、住まいの環境を見つめ直し、打ち出されている</p>	<p>第一に、「第3次坂戸市健康なまちづくり計画」(以下、「計画」)に補足として、用語集やQ&amp;Aのページを加筆することにつきましては、本計</p>

<p>政策に目を向けるとても貴重な機会につながります。パブリックコメントが寄せられたことは、市民が自らの健康や自身を取り巻く健康環境について関心を有し、市が打ち出す健康政策へ注目している現れであるにとらえることができます。</p> <p>「坂戸市健康なまちづくり計画」は、市民の健康意識を高め、健康増進を促すねらいを有していることから、パブリックコメントによる反応は、本計画のねらいの一つを実現することができたと読み取ることができると考えました。</p> <p>「令和5年度第4回坂戸市健康なまちづくり審議会審議事項概要説明（R6.2.6）」（以下、「概要説明」）の1頁におきまして、「市民コメントにつきましては、本計画に反映させる事項はございませんでしたが、（以下省略）」と記されていましたが、市民からのパブリックコメントは非常に重要な点を指摘しています。その点を十分に踏まえ、対応または表現を工夫することを提案いたします。</p> <p>「概要説明」4頁目の市議会議員からの質疑については、「いただきましたご意見を計画の最終案に反映する事項がございました（以下省略）」とありました。</p> <p>市民からのパブリックコメントと、市議会議員からのコメントは、表現は異なりますが、以下の通り似通った内容の指摘が見られました。</p> <p>A. 「第3次坂戸市健康なまちづくり計画（素案）」（以下、「計画素案」）に特徴が少ない（資料1：4）</p> <p>B. 「計画素案」における印象づけの必要性（資料2：2）</p> <p>C. 「計画素案」における「まち」の概念について（資料1：1）</p> <p>D. 「計画素案」における「ライフコース」の用語解釈について（資料3：26-27）</p> <p>A.とB.は、「計画素案」において、市独自の特色が十分に見えてこない、という指摘です。「計画素案」では、坂戸市としての特色を前面に打ち出すためにも、工夫を凝らす必要があります。</p> <p>C.とD.は、用語についての指摘です。この指摘を受けて、対応を講じていく必要があると考えています。</p> <p>以上の指摘、ならびにパブリックコメントに</p>	<p>画では現段階では難しいことから、今後の課題とさせていただきます。</p> <p>第二に、計画とその他の政策との関係性や連携について、計画内において明らかにすることについてきましても、第四のビジュアル効果を意識することなどもあわせて、今後の課題としてまいります。</p> <p>第三に、「計画」を進めていく過程において、積極的に市民の参画を呼び掛ける仕組みをつくることについてですが、現在、本市で行っております「元気にし隊」への支援が該当するものと考えますが、いただきました資料も参考に、今後の計画の推進の取組の中で、検討してまいります。</p> <p>第四に、「計画」を公表するに際して、ビジュアル効果を意識して、わかりやすさ、見やすさを追求・工夫することについてですが、用語解説や関連性や連携を示した相関図を組み入れるなど、ビジュアル効果を意識した構成について、次期計画策定時に課題としてまいります。</p> <p>また、「計画」の発信方法につきましては、ICTの利活用も含めた、各年代に届く情報発信などの工夫の取組において、ビジュアル効果などについての検討もあわせて行ってまいります。</p>
--	---

おけるその他の指摘への対応を含め、以下の通り私見を述べます。

- ①用語集やQ&Aページを加筆
- ②関連性と連携を明示する
- ③市民の参画を促す取り組みを考案する
- ④ビジュアル効果を意識して工夫をする

第一に、「第3次坂戸市健康なまちづくり計画」（以下、「計画」）に補足として、用語集やQ&Aのページを加筆することです。

白書や計画等を見てもわかる通り、用語について解説するページを、別ページに設けています。

男女共同参画局HP

[https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/glossary/index.html](https://www.gender.go.jp/about_danjo/glossary/index.html)

「概要説明」では、説明を加筆して対応する旨が記されておりました。この対応も必要ですが、別ページにおいて、まとめて確認できるよう、説明が必要と思われる用語（例えば、馴染みのない用語や幾通りも解釈が分かれる用語など）について、解説するページを設けてはどうか。市民から寄せられた質問に答える、Q&Aというスタイルも取り入れ、わかりやすさ、見やすさを強調し、「計画」表紙等においても、「わかりやすさ、見やすさを追求し、用語解説や図表を多く取り入れた」ことをアピールポイントとして打ち出してはどうか。これが、④のビジュアル効果を意識した工夫にもつながると考えられます。

第二に、関連性と連携をわかりやすく示すことです。

市民コメント（資料1：5-6）でも指摘がありました通り、その他の政策との関係性や連携について、「計画」において明らかにする必要があります。この点につきましては、過去の審議会におきまして、すでに私が指摘いたしております。議事録をご確認いただければと存じます。健康政策は、多くの分野と関係して成り立ちます。そのため、「計画」がどの分野の、どの政策と関連性があるのか、図式化するなどして、わかりやすく伝える工夫が必要になると考えています。また、連携を示すことも重要です。国や県の関係する機関との連携、坂戸市のなか

で、関係する機関や部門との連携などについても、相関図を挙げておくことが望ましいと考えられます。

第三に、「計画」を進めていく過程において、積極的に市民の参画を呼び掛ける仕組みをつくることです。

市民コメント（資料1：7）において、「市民座談会のような組織」を希望するコメントが寄せられていました。このコメントから、健康について積極的に取り組もうとしている姿勢を読み取ることができました。

過去の審議会におきまして、市民の参画をさらに促すために、公民連携について指摘いたしました。今回は、共創活動という視点から見解を述べます。

本計画は、坂戸市に暮らすすべての市民に、健康についての取り組みを促すことから、積極的に市民を参画させていく仕組みをつくる必要があると考えています。現在の「元気にし隊」の活動を含め、市民自らが参画し、健康について語り合い、取り組みを共有し、新たな活動へとつなげていくことができる基本的な環境づくり（新たなプラットフォーム）に、積極的に取り組むことも重要です。基本的な環境づくりとして、市民の視点、行政の視点、学術機関の視点などを組み合わせ、共創活動（リビングラボ）を推進していく環境づくりなどを考えてはどうでしょうか。

経済産業省「リビングラボ導入ガイドブック」  
[https://www.meti.go.jp/policy/servicepolicy/living\\_lab\\_tebiki\\_a4.pdf](https://www.meti.go.jp/policy/servicepolicy/living_lab_tebiki_a4.pdf)

リビングラボは、対話や交流を重視します。リビングラボにおいて、それぞれの立場や視点から、健康について語り合い、どのような取り組みがふさわしいのか、政策としていかなる視点を盛り込むことが必要なのか、対話・交流を通じて見極めていくことで、市民も政策策定までの道のりに積極的に参画することができます。

市民の積極的な参画を促す意味でも、新たなプラットフォーム（活動を展開していく基本的な環境）づくりは必要になると考えています。

第四に、「計画」を公表するに際して、ビジュアル効果を意識して、わかりやすさ、見やす

	<p>さを追求・工夫することです。</p> <p>上述の通り、市民コメントや市議会議員からも、特色を明確に打ち出すよう指摘が寄せられていました。特色を打ち出すには、内容についてもさることながら、ビジュアル面の工夫も必要になると考えられます。本件につきましても、過去の審議会におきまして指摘いたしました。市のマスコットキャラクターの活用や、キーワードをちりばめる工夫に加え、①でも述べた通り、用語解説や関連性や連携を示した相関図を組み入れるなど、ビジュアル効果を意識した構成を心がける必要があると考えています。併せて、「計画」の発信方法についても多様な媒体を活用し、ビジュアル効果を押し量りながら、望ましいスタイルを確立していくことが必要になると考えています。この点につきましても、過去の審議会において指摘した通りです。</p>	
資料 4	<p>超高齢化、それに伴う人口減少に際し予測不可の事態も起こりえます。意見要望にあるように、迅速な見直しを図られることが望ましいと考えます。</p>	<p>本計画の進行管理におきましては、PDCA サイクルを用いて行い、制度の変化が生じた場合等には迅速に見直しを図ってまいります。</p> <p>計画策定後の推進では、市民、各主体と本市が協働しながら目標達成に向けて各種取組を推進し、健康なまちづくり審議会、健康なまちづくり計画庁内策定・推進協議会において、適時評価を行います。</p>